

学校だより



# せいび

令和6年10月31日

杉並区立済美小学校

校長 八代 史子

…済美小学校の大事なひとりになろう…

〒166-0013 杉並区堀ノ内 1-17-24 Tel 03-3313-2364 FAX 03-3313-8634

<http://www.suginami-school.ed.jp/seibishou/>

## 全国学力・学習状況調査の結果とこれからの学習指導について

主幹教諭 板垣 裕明

秋の深まりを感じる頃となりました。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。今年度1学期に実施しました文部科学省の「全国学力・学習状況調査」6年（国算）についてご報告いたします。（今年度より東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」は終了となり、杉並区の「特定の課題に対する調査」は意識調査のみとなっています。）

【全国学力・学習状況調査】6年（右表参照）

国語の正答率は、全国と比べて同等の結果となっています。東京都とは、-3ポイントという結果となっています。算数の正答率は、全国と比べて1.6ポイント上回り、東京都とは3ポイント下回っています。

正答率(%)	国語	算数
本校	67	65
東京都	70	68
全国	67.7	63.4

具体的な項目別に正答率を見てみると、国語では「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」の項目が46.8%、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」の項目が43.5%と都の平均より低くなっています。「目的や意図に応じて…」の項目では、普段から自分の考えをもつことを意識することや、国語で出てきた物語や説明文の筆者、作者の考えについて自分の意見を表現することが大切だと考えます。筆者が読者に対してどんなことを伝えたいのか、自分がどう感じたのかを積極的に表現する機会を授業で作っていきます。「学年別漢字…」の項目では、普段から丁寧な字で、習った漢字は当たり前を書くという意識が大切だと感じます。一般的に、何度も繰り返し書いていけば、自然と漢字は定着していくものです。面倒くさがらずに、「丁寧に、習った漢字は書く」を意識付けしていきます。

算数では、「球の直径の長ささと立方体の一辺の長さの関係をつえ、立方体の体積の求め方を式に表すことができる」の項目が43.5%、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」の項目が33.9%と都の平均より低くなっています。「球の直径の長ささと…」の項目は、「直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」という問題でした。誤答の主な理由としては、場面を正確に把握できていないこと、直径などの算数用語や体積の公式の定着不足などが考えられます。「道のりが等しい場合…」の項目は、「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」という問題でした。この問題では、速さ・道のり・時間それぞれをどのように求めるかが定着していないことが考えられます。これからの授業では、ただ公式などを覚えるのではなく、公式の根拠となる過程や思考の部分を大切に、より子供たちの記憶に残るような工夫をしていきます。

その一方で全国や東京都よりも正答率が上回った項目もあります。国語では、「物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」という項目が77.4%、算数では、「円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く」という項目が87.1%と都の平均より高くなっています。

今回の学力調査で、子供たちの得意なことや苦手なことが見えてきました。私たち教員は、これらのことを踏まえながら、子供一人一人が自分のよさを伸ばし、苦手なことを克服していけるような指導、環境づくりをしていくことが大切であると改めて感じました。どの学年でも一人一人の個性を受容し、伸び伸びと学ぶことができるように、教職員一同努めてまいります。これからも学校へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

（※全国学力調査の結果については、後日配布される個人票をご確認ください。）